

No.1591

第1592 回例会

2013年9月6日(金) 12:30～13:30

点鐘

君が代斉唱

ロータリーソング “奉仕の理想”

会食(洋食・\$100万ミール)

会長会務

*ビジター紹介。

*9月1日(日)津山で開かれました会員増強・ロータリー財団合同セミナーに参加してきました。竹内幹事・吉田会員・倭島会員、お疲れ様でございました。

*木の話(7)。今回は竹内幹事と事務局増田さんが、お住まいの田島通りに整然と植栽され、良く管理されているツバキ科のサザンカについてお話しします。



*9月は新世代のための月間です。

*8月の結婚祝を差し上げます。

岩ノ上洋一郎 瀧本浩志 森下哲也の各会員

幹事報告

*配布物 ロータリーの友9月号、ガバナー月信 No.3

*例会後、定例理事会を開催いたします。

委員会報告

*親睦活動・出席委員会

出席率・スマイル報告

*雑誌委員会 *その他

卓話「会員増強・ロータリー財団

合同セミナーの報告」

会員増強委員長 吉田 博さん

ロータリー財団委員長 倭島昭博さん

先週(第1591 回例会)の記録

2013年8月30日(金) 12:30～13:30

会長会務

*木の話(6) アオイ科のムクゲは、やや大型の落葉低木で庭によく植えられています。春には緑で波形が浅く、菊に良く似た元気な葉が茂ります。ムクゲは多くの品種があり、7月から10月には6cm位の白、紫、紅、八重咲きなど美しく優しい花を咲かせます。この花は朝開き夕方しぼみ、また翌日開く特徴があり、長いものでは2週間程度咲いて楽しませてくれます。私は昔、職場が改築された時の中庭にムクゲを選びました。土地が肥えていたこともあって、大きく成長し、毎年枝葉に美しい花が咲き並び、職員一同を元気づけてくれたということ、この木に強い印象を持っています。ムクゲは中国南部の暖かい地方が原産で、日本には奈良時代に渡来したと言われています。その後、和歌山県や山口県には野生化したムクゲがあったとされます。今朝、NHKの地方ニュースで若桜街道のムクゲが紹介され、会長会務テーマとの偶然の一致に驚きました。

幹事報告

*直前ガバナー事務所より

①2012～2013年度ガバナー月信CD-R。

②直前ガバナー事務所閉所のお知らせ。

③当年度ホームページは、9月より2690地区アーカイブとして2010年以降の地区ホームページとガバナー月信が掲載されることになりました。

*鳥取中央RCよりクラブ活動運営計画書。

*地区大会登録料10,000円は次週集めます。

参加者は、西尾 茂、山下卓治、竹内 隆、岩崎陽一、生馬美津雄、岩ノ上洋一郎、大田原俊輔、児島 良、田中章夫、葉狩弘一、濱本眞一、広谷全宣、宮本孟尚、森下哲也、矢谷英志、山田 正、油谷博文、吉田 博、米村年博、米花廉友、米本哲人の会員と米山奨学生、事務局 総勢23名です。

なお、西尾 茂、山田 正会員の両名は前日からの参加となります。

出席率

8月30日 会員52名 欠席12名 76.92%

8月16日 休会のため補正はなし

メーキャップ会員

8月29日 児島 良 森下哲也 錫木卓朗
大田原俊輔の各会員 鳥取RCへ

スマイル

- * 西尾 茂会員／鳥取大学 小林 一先生、本日は卓話よろしくお願ひいたします。
- * 竹内 隆会員／小林先生、本日の卓話ありがとうございます。楽しみにしています。
- * 岸本 潤会員／小林先生、本日はお忙しいところ卓話をしていただきありがとうございます。
- * 岡田信俊会員／小林 一先生、本日は卓話をよろしくお願ひ申し上げます。
- * 坂本 直会員／小林先生、本日の卓話どうぞよろしくお願ひいたします。私事ですが、今月末をもって代表取締役を退任し後継に委ねることとなりました。
- * 山下卓治会員／大西さん、永い間ありがとうございます。
- * 山下聖児会員／岡田さん、ありがとうございます。
- * 油谷博文会員／皆勤表彰。まだ17年です。
- * 西尾正博会員・広谷全宣会員／創業記念日。
- * 早退3件 合計 19,000円

卓話 「日本の食料を考える」

鳥取大学農学部 教授 小林 一さん



- * 近年約50年間に我が国の食生活は、供給熱量の総量には大きな変動はないものの、その構成において大きな差が見られる。ご飯の代わりに肉や卵の畜産物や油脂類を使った料理が増加している。日本の長寿を支えていた栄養バランスの取れた昭和50年代の日本型食生活は崩れてきている。米を中心とする炭水化物の消費量が減り、脂質の摂取過剰が続いており、日本の食生活の見直しが問われている。「飽食の時代」を迎えたと言われる日本の食生活では、食品ロスが生じ、貴重な食料が大量に廃棄されている。2007年の統計では、日本の一般の世帯で4%（約500万人）分が廃棄されており、宴会や宿泊施設等では10%～15%もの食品の食べ残しがある。
- * 日本の食料需給は年々低下しており、6割は外国に依存している現状の中、食料安全保障の確立が重要課題となっている。大豆、小麦、でんぷん（とうもろこし）については、国内消費の大部分を海外に依存し、ほとんどの品目が海外依存度を増している。
- * 米需給では、食糧財政の支出の削減のねらいか

ら米の適正在庫量（備蓄）を100万トンに抑制しているが、国民の米消費量は50年前と比較して50%を切ったことから国内生産量も縮小が続いており、凶作等による影響が懸念されている。

- * 世界の人口は増加傾向を続けており、現在71.3億人が2100年には100億人を突破すると見込まれる。増加する人口を誰がどのようにして養うかが問われる。世界の穀物需要量は、開発途上国の人口増や所得水準の向上等により、1970年に比べ2倍の水準に増加している。生産量は主に単収の増加によっている。安全在庫水準は全穀物の17%～18%とされており、現在はこの水準を超えてはいるものの干ばつ等の異常気象があれば、その影響は大きい。また、世界の飢餓人口は減少してきているが、現在、約9億人（世界人口の12%）がいる。さらに、国家間に食料分配の不平等が存在している。日本は世界最大の食料純輸入国で中国が輸入額を増加させているが、長期にわたって特定国が大量の食料を輸入し続けることには人道的、倫理的側面から問題がある。
- * TPP参加による日本農業への影響について、TPPは決して農業だけの問題ではない。現在12ヶ国による交渉を実施中で24の作業部会が立ち上げられ、議論が進められている。TPP加入により予測される影響は、2013年試算によると日本経済全体では実質国内総生産額の0.66%（3.2兆円）増加としているが、農林水産業では農林水産物生産額の42%（3.0兆円）程度減少し、食料自給率は39%から27%程度に減少する。農業の多面的機能の喪失額は1.6兆円となる。項目別の生産量減少率については、米32%、豚肉70%、砂糖100%の影響試算となっている。また、日本の農産品は高関税に守られているとの声に対して、日本は貿易自由化について世界をリードしてきており、農産品についても関税を引下げ、大幅な市場開放を進めている。加えて、TPPによって輸入農産物や食品に対する安全性基準が引下げられる公算が大きい。さらに農業の衰退による環境保全（洪水防止機能など）への影響があり、農業生産の縮小は多面的機能の弱体化に結びつく。
- * 日本の食料を守るのは私たち日本人であり、米国など諸外国は責任を持たない。生活に不可欠な食料や環境の確保に役割を担っているのは農業である。国の均衡ある産業・社会構造を支えているのは農業であり、農業及び食料関連産業は内需拡大への効果は大きく、デフレ脱却の鍵を握っている。また、EUや米国ではなく、アジアを基盤にした国債貿易を展開し、アジア互惠の道を探る必要がある。経済のグローバル化（TPP）とは、奪い合うことではなく共生の社会を作ることであり、アジアにおける食料備蓄、食料安全保障、共通農業政策の可能性を日本がリーダーとなって切り開いていくスタンスを構築していくことが大切である。

次週例会予定

2013年9月13日（金）第1593回例会

卓話「地元経済誌からみた鳥取県の36年」

（株）山陰政経研究所 代表取締役 岡田健二さん